

獣害対策と地域振興語る

丹波篠山でフォーラム



獣害対策などについて意見を交わすパネリストたち（丹波篠山市で）

農家や研究者ら100人参加

野生動物による農作物などへの獣害対策に取り組み、地域の活性化にもつなげることを目的にした「獣害フォーラム」（実行委員会主催）が丹波篠山市で開かれ、農家や研究者、大学生ら約100人が熱心に意見を交わした。

5回目となる今回のテーマは「獣害対策の新展開～高齢化・過疎化にどう立ち向かうか～」。研究や活動に取り組んできた5人が意見を発表した。

オンラインやセミナーで料理教室の主宰と乳幼児の

食事の支援を続けている西宮市の さんは、

丹波篠山市での農作業体験に家族ぐるみで4年前から参加し、「子どもが自然の中でいきいきし、自分で考えて遊べるようになった。新鮮な野菜こそ子どもの五感を刺激する」と報告。料理教室では丹波篠山産の野菜を使っており、「食卓の応援と獣害対策への支援をかけ合わせる仕組みを作ることができれば」と提案した。

県立篠山東雲高2年の

さん(17)は、集落に放置されてニホンザルを誘引するものになる柿の活用に取り組み、柿を使った菓子づくりの事例を発表。「獣害対策を応援できる商品を作って地域の役に立ちた

2023年2月10日
読売新聞

い」と話した。
NPO法人「里地里山問題研究所(さともん)」代表理事の さんは「獣害は人口減少・高齢化

が進む農村の問題の一つとして考えなければならぬ」と説明。具体策として▽企業や団体、関係人口に関わってもらう▽農産物の応援消費をする▽コミュニティづくり▽「ふるさと納税」の返礼品への活用などを提案した。